

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34106

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10627

研究課題名（和文）地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師に期待される実践能力評価指標の開発

研究課題名（英文）Development of assessment indicators for practical skills expected of public health nurses at medical institutions to promote community-based integrated care

研究代表者

大谷 喜美江 (Otani, Kimie)

四日市看護医療大学・看護医療学部・准教授

研究者番号：30507843

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1.医療機関保健師に関する文献検討、2.医療機関保健師及び管理監督者へのインタビュー調査、3.特定健康診査機関の保健師へのアンケート調査、4.医療機関保健師のweb交流会を実施した。その結果、文献検討から「地域への貢献」も保健師の役割だと分かった。インタビュー調査では、保健師は個別支援・集団支援をとおして地域と連携していた。また管理監督者は、保健師に地域に開かれた病院づくりを期待していた。アンケート調査では、大多数が地域包括ケアシステムづくりの重要性を認識する一方、内容の理解者は約6割であった。web交流会では医療機関保健師特有の悩みや課題を認めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保健師は、関係機関との協働や社会資源の組織化、健康を支えるシステムの創生などに取り組む。地域包括ケアシステムを構成する医療機関にも保健師が就業するが、6.4%（2020年）と就業保健師総数に対し少ない。そのため先行研究が少なく、実態把握が不十分な状況にある。本研究では、医療機関保健師の具体的な役割や地域包括ケアシステムに関する認識等を把握しており、一定の意義があった。また医療機関には保健師職専用の教育研修体制が整備されていないことが多く、学習・情報収集の機会が乏しい。本研究では医療機関保健師を対象としたweb交流会を設定し、情報交換や日頃の悩みや課題を共有する機会を提供できた。

研究成果の概要（英文）：This study included a literature review of public health nurses (PHNs) at medical institutions, interviews with PHNs and supervisors at medical institutions, a questionnaire survey of PHNs at specific health check-up institutions, and an online networking event for PHNs at medical institutions. The literature review revealed that PHNs should “contribute to the community.” The interview revealed that the PHNs worked with the community through individual and group support. Supervisors expected PHNs to promote hospitals that are open to the community. The questionnaire survey revealed that most PHNs recognized the importance of creating a community-based integrated care system, whereas only approximately 60% understood its content. The networking event acknowledged the challenges unique to PHNs in medical institutions.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：医療機関保健師 地域包括ケア

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 地域包括ケアシステムの重要性と医療機関保健師の課題

超高齢社会を背景に地域包括ケアシステム構築が重視されており、医療機関に勤務する保健師（以下、医療機関保健師）にも地域や集団の健康課題への対応が求められている。医療機関保健師が自身の専門性や期待される役割・実践を理解し、活躍することは、地域包括ケアシステムの促進に繋がる。

しかし現在、病院・診療所の保健師の割合は行政保健師に比し実数が少なく医療機関保健師の活動の実態把握や課題の共有がなされにくい。保健師活動基盤調査⁽¹⁾の結果でも、保健師職相互が悩みを共有できる組織内保健師連絡会の設置は、行政機関に比べ病院・診療所では 25.1%と著しく少ない。また保健師基礎教育では、時間的制約等の中で医療機関保健師関連内容の十分な教授が難しいと推察される。保健師国家試験出題基準には学校保健・産業保健の活動領域特有の基準があるが、活動領域を医療機関に特化した記載はない。この結果、病院保健師の役割理解が不十分なまま就業する事例も少なくないと考ええる。

(2) 医療機関保健師の業務内容と現任教育の状況

医療機関保健師の業務は保健指導や健診が多く⁽²⁾、配置部署を超える兼務も多い⁽¹⁾。ある調査では、医療機関保健師は、医療機関や看護管理者から健診関連の保健指導や地域の健康教育等の地域貢献、広域に対応する能力⁽²⁾を期待されるが、研修体制は看護師と同様のことが多い⁽²⁾とされている。先に述べた日本看護協会の調査でも、医療機関保健師自身の現状認識は、その 56.9%が日々の業務に追われ⁽¹⁾、42.1%が保健師・看護師の区別がなされない⁽¹⁾との職業アイデンティティの揺らぎを感じる中で、44.6%が保健師としての能力不足を感じている⁽¹⁾。以上のことから、医療機関保健師が高い業務負荷の中で、自身の保健師としての専門性や能力に自信が持てず、悩みながらも、期待に応えようと努力しながら公衆衛生看護を日々実践していることがうかがえた。

2. 研究の目的

(1) 小研究 1：医療機関に所属する保健師の役割に関する文献検討

小研究 1 では、医療機関に所属する保健師の役割を文献検討により明らかにし、地域包括ケア推進に向けた示唆を得ることを目的とした。

(2) 小研究 2：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師の活動の実態と期待される役割

小研究 2 では、地域包括ケアの推進のため、医療機関保健師の活動の実態や期待される役割を、医療機関保健師およびその管理監督者へのインタビュー調査に基づき明らかにすることを目的とした。

(3) 小研究 3：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師に必要な実践能力に関する実態調査

小研究 3 では、医療機関保健師と地域における多機関・多職種との連携や地域包括ケア推進上の課題や方略を検討するための示唆を得るために、地域包括ケア推進に向けて医療機関保健師に必要な実践能力の実態を明らかにすることを目的とした。

(4) 医療機関保健師等情報交換会

小研究 2 のインタビュー調査において、研究参加者より研修や学習機会が少ない状況があり、類似の他機関との交流を望む声が得られた。このことをうけ、研究者が事務局となり医療機関保健師等の情報交換会を設定した。開催目的は、医療機関保健師等の参加者の相互交流、日頃の悩みや疑問点の解消、新たな情報を得る機会の提供とした。

3. 研究の方法

(1) 小研究 1：医療機関に所属する保健師の役割に関する文献検討

研究デザインは系統的文献検討とした。文献のデータベースには医学中央雑誌 web 版（2018 年 5 月時点）を用いた。検索は「医療機関」、「保健師」、「役割」をキーワードに使用した AND 検索とし、収載年は指定しなかった。対象文献は会議録・座談会および重複する文献を除き、日本の医療機関保健師の役割の記述があるものを採用した。分析方法は、要約表を作成し文献の動向を把握した後、医療機関保健師の役割に関する質的帰納的分析を行った。

(2) 小研究 2：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師の活動の実態と期待される役割

研究デザインは、半構造的面接による質的帰納的分析とした。研究参加者は、地域とのかかわりがみられる医療機関に所属し、良好な保健師活動を実践している者およびその管理監督者とした。対象者の抽出は便宜的抽出とし、対象者数は、保健師及び保健師の管理監督者各 5 名程度とした。

保健師へのインタビュー内容は、経験年数などの属性を把握後に、普段実践する保健師業務内

容、専門性から期待されると思う役割、活動上の困難や、やりがいとした。管理監督者へのインタビュー内容は、属性を把握後に、管理監督者自身が考える医療機関に所属する保健師の役割、医療機関保健師に期待することとした。調査は2020年2月～5月に実施した。

(3) 小研究3：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師に必要な実践能力に関する実態調査

研究デザインは、実態把握を目的とした量的横断調査研究とした。対象者は「特定健康診査機関・特定保健指導機関データベース」にて健診機関登録がある機関のうち、第三者評価を実施し、かつ中部圏9県（2024年1月に発生した大規模地震の影響を考慮し石川県を除いた）に調査時点現在も立地する183施設に所属する保健師（病院および病院附属健診センター・診療所・医療を伴わない健診機関に所属する保健師）とした。郵送により各施設へ依頼状を送付した。依頼状とともに各施設3通の研究説明書を同封し、各研究説明書に記載した固有のURL・二次元バーコードからweb上のアンケートフォームへの回答を依頼した。回答は依頼状到着後2週間以内とした。なお本調査では地域包括ケアや地域包括ケアシステムを広い意味で捉え、対象者を高齢者にとどめず、地域で生活する全ての人とした。

調査内容は、属性、地域包括ケアシステムに関する認識、保健師に求められる実践能力、および小研究2のインタビュー調査を受けて検討した管理監督者が医療機関保健師に対し期待することとした。調査は2024年3月に実施した。

(4) 医療機関保健師等情報交換会

本情報交換会はweb会議システムを使用して実施したweb交流会とした。参加者のリクルートは開催当初においては小研究2の協力者のうち、特に医療機関の健診部門に所属する保健師の希望者に任意で出席を依頼した。また、健診後の保健指導を受託する保健指導機関の保健師も直接の対象者とした。以降、参加者による他の紹介や研究者が対象となる未参加の医療機関保健師に交流会を紹介し、希望者が参加した。開催回数は概ね4か月に1回、合計で年3回とした。交流会1回あたりの開催時間は90分とした。内容は、参加者相互の自己紹介、事務局からの話題提供、参加者からの話題提供、参加者が希望したテーマによる意見交換などとした。本交流会は2020年から毎年継続的に実施した。

4. 研究成果

(1) 小研究1：医療機関に所属する保健師の役割に関する文献検討

17件の対象文献から得られたコードの質的帰納的分析の結果、医療機関保健師の役割には「医療機関利用者本人を支援する」、「医療機関職員と協働、サポートする」、「関連団体、地域に貢献する」、「専門性から期待される役割」の4つのコアカテゴリーが含まれていた。

このうち地域包括ケアシステムの構築に必要な医療機関保健師の役割（組織間の連携・協働や保健師専門性に関連した役割）を抜粋した結果は、表1のとおりであった。

表1 地域包括ケアシステムの構築に必要な医療機関保健師の役割（分析結果より抜粋）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
医療機関職員と協働、サポートする	地域の医療・保健・福祉の橋渡し	地域の関係機関や関係職種と連携
		地域医療情報管理
		連携のコーディネーター
		連携に関連するアセスメント
関連団体、他団体との相互協力	ネットワークの事務局	ネットワークの事務局
		地域貢献に関連した保健師活動
関連団体、地域に貢献する	地域貢献に関連した保健師活動	健診関連の啓発
		社会資源活用の普及
		市町村事業への協力
		地域のコンサルタント
		地域の保健・医療・福祉ネットワークへの参画
		地域保健との連動
専門性から期待される役割	専門知識・技術の活用	セルフヘルプグループ事務局
		幅広い知識とコミュニケーション能力
		地域診断などの地域支援技術の活用
		地域の健康課題を見据えた一連の個別支援

(2) 小研究2：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師の活動の実態と期待される役割

本インタビュー調査では、6名の医療機関保健師及び5名の管理監督者の協力を得た。医療機関保健師への調査では、所属医療機関の特性（専門とする診療科や対象、地理的特性、設置母体等）や保健師が所属する部署（病棟、健診部門、保健専門部門等）により活動内容は多少異なったが、いずれの医療機関保健師も個別支援・集団支援をとおして地域と連携していた実態が把握された。また、健康診断や保健指導による収益の増加を念頭に置くなど、病院経営を意識した保健活動の展開も行われていた。

この6名の医療機関保健師の活動から語られた困難を抽出し、質的帰納的分析を実施した。結果、医療機関保健師が認識する困難は、「社会的要因から生じる困難」、「限られた条件下で対象の特徴をふまえた活動を展開する難しさ」、「医療機関保健師が自信をもつ

表2 医療機関保健師が認識する困難

困難の区分	カテゴリー	サブカテゴリー
社会的要因から生じる困難	医療機関保健師の存在や役割の社会的認知が不十分	院内外で保健師の存在が認知されていない
		院内で保健師の業務内容が十分理解されていない
		単なる健診・保健指導運営者との理解に留まる
		健康・生活の維持の支援役割が理解を得にくい
限られた条件下で対象の特徴をふまえた活動を展開する難しさ	医療機関保健師が所属組織から求められる活動方針が見えない	保健師という職種の独自性が理解を得にくい
		利益を得にくい地域活動への組織の理解不足
		健診要医療者の受診調整方針の不明瞭さ
		保健師所属部門の活動ビジョンが見えない
医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	医療機関保健師としての自分の活動に自信がもてない	院内における多言語での意思疎通の調整
		対象者の特性による治療の理解の得にくさ
		対象者の背景による行動変容の難しさ
		医療機関保健師と行政保健師双方が対象に関わる上での情報不足
医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	医療機関保健師のための体系的な教育体制の不足	業務内容と稼働量のバランスが難しく健診運営に追われる
		健診受診者の検査項目をこなすことに追われる
		所属医療機関における保健師としてのアイデンティティの未確立
		自分の活動内容や程度がこれでよいかの迷いや不安
医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	対象者のよい反応を自分引き出せない無力感
		活動の質向上に向けた取り組みが個人に任せがちである
		保健師が活動成果を振り返る機会の不足
		必要な最新情報をタイムリーに入手しづらい
医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	機会の不足
		院内外でこまめに情報交換をする機会がなく悩みを抱えやすい
		研修に参加しやすい体制の未整備
		医療機関保健師が参加しやすい研修機会の不足
医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	医療機関保健師が自信をもって働くための支援体制の不足	所属医療機関からの研修参加に関する支援に限りがある

て働くための支援体制の不足」の3つに大別された。結果を表2に示す。所属組織によっては保健師職の存在や役割の社会的認知が不十分であること、医療機関内で保健師のための体系的な教育体制が不足していることなどが把握された。

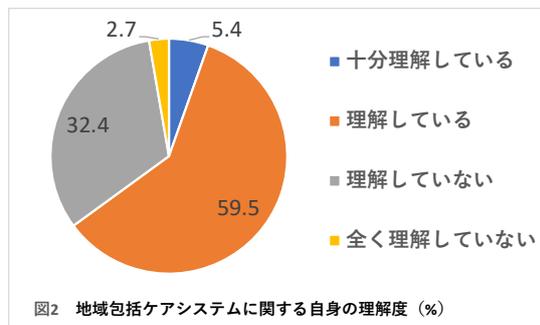
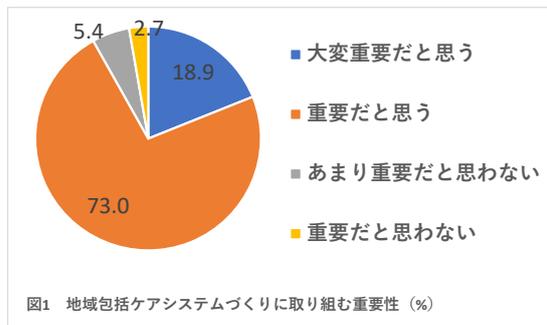
一方、医療機関保健師の管理監督者5名へのインタビュー調査の質的帰納的分析の結果から、管理監督者が認識する保健師の役割は『医療機関利用者本人を支援する』、『医療機関に所属する保健師として地域に貢献する』に大別された。このうち地域包括ケアシステムの構築に必要な医療機関保健師の役割（組織間の連携・協働や保健師専門性に関連した役割）を抜粋した結果は、表3のとおりであった。管理監督者は、保健師に地域に開かれた病院づくりを期待していた。

表3 管理監督者が認識する地域包括ケアシステム構築に関連した医療機関保健師の役割（分析結果より抜粋）

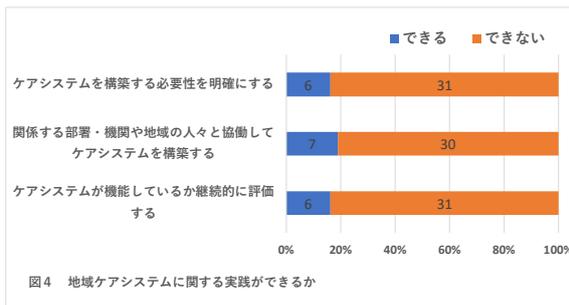
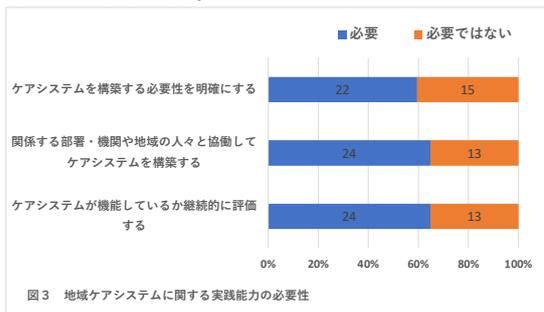
コアカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ
医療機関利用者本人を支援する	安心した地域生活への移行を支えるケースマネジメント	安心した地域生活基盤の構築を目指したケースマネジメント
		援助が必要な対象の把握
		情報の統合、アセスメントと対応の提案
		院内での多職種連携
		地域機関を含めた関係者会議の調整・運営
医療機関に所属する保健師として地域に貢献する	所属医療機関の地域貢献を担う保健師活動の展開	所属医療機関が担う公的役割
		地域の専門職育成
		対象がもつ力を引き出す健康教育の展開
	地域包括ケアシステム構築をて地域に貢献する活動	医療機関と地域をつなぐ橋渡し
		個と地域のニーズを連動させて活動する
	関係機関との連携・協働	地域ネットワーク構築
		地域に不足する資源の開発

(3) 小研究3：地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師に必要な実践能力に関する実態調査
本アンケート調査では、38名の保健師から回答を得た。

自分の保健師活動において地域包括ケアシステムづくりに取り組むことの重要性の程度は、「大変重要だと思う」と「重要だと思う」の合計が91.9%と回答者の大多数を占めた（図1）。その一方、地域包括ケアシステムに関する自身の理解度の認識は、「十分理解している」と「理解している」の合計が64.9%であった（図2）。



加えて本調査では、地域ケアシステム（地域包括ケアシステム）に関する実践能力について、医療機関保健師に必要なか（図3）、また自身が実践できるか（図4）を把握した。その結果、いずれの項目もおよそ6割が「必要」と回答した一方、自身が「実践できる」と回答したものは2割未満であった。



(4) 医療機関保健師等情報交換会

2020年度から2023年度までの期間に、web会議システムを用いた情報交換会を計12回実施し、延べ83名の参加を得た。保健師の所属機関は大多数が中部地方に所在したが、中国地方に所在する機関からの参加もあった。この情報交換会で実施した内容を表4に示す。

参加者からは「保健指導ツールの活用例など業務上の些細な困り事や悩みを気軽に相談できる」等の声が聞かれた。本情報交換会の開催から、医療機関保健師に特有の悩みや課題

表4 医療機関保健師等情報交換会の内容

年度（延参加者数）	回数	事務局話題提供	参加者話題提供	ディスカッション
2020 (13)	1	研究進捗紹介（小研究2：管理監督者が認識する保健師の役割と期待）	初回のため実施せず	健診部門に所属する保健師の活動と教育体制
	2	研究進捗紹介（小研究2：医療機関保健師が認識する困難について）	病院紹介・保健師活動（A病院）	健診受診者の検査介助・リカバリールーム
	3	震災直後の避難所での健康支援活動の実際と地域防災の現状	病院紹介・保健師活動（B病院）	健康教育・保健指導について一使用教材・工夫
2021 (20)	1	ナッジ理論を応用した受診動員	病院紹介・保健師活動（C病院）	健診受診者を増加させる工夫
	2	令和2年業務上疾病動向	施設紹介・保健師活動（D保健指導機関）	全国病院基準と判定区分
	3	中小企業の特徴と保健師の役割	施設紹介・保健師活動（E労働衛生機関）	保健指導の評価方法
2022 (29)	1	健康保険組合の立場から—健診機関、保健指導機関との連携	施設紹介・保健師活動（F健診センター）	急変時の対応、新型コロナウイルス感染症の対応
	2	2学校におけるがん教育の取り組み	内視鏡検査の麻酔の体調管理・新型コロナウイルス感染症への対応（B病院）	健診受診者を増加させる工夫（HPの改良など）
	3	3保健師の人材育成	オプショントラックの現状（A病院）	新人研修（事前準備・期間・内容等）
2023 (21)	1	1基本的な感染対策—換気について	病院紹介・保健師活動（G病院）	新型コロナウイルス感染症の5類移行後の健診運営方法の変化
	2	2メンタルヘルスケアに関する教育技法—病院紹介・保健師活動（C病院）		非協力的な事業所担当者への対応、保健指導対象者への配布物
	3	3健康保険組合保健師の活動および健診	人間ドック・健康診断要精検者の受診・未受診要因の分析（B病院）	第4期特定健診・特定保健指導への取り組み

があるものの、解決のための情報を得る機会が少ないことがうかがえた。情報交換会が医療機関保健師相互の貴重な交流機会となっていることから、研究終了後は参加者中心の運営で継続を検討する。

<引用文献>

①日本看護協会：保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書, 2016.

<https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-katsudokiban.pdf>, 2017/10/19 閲覧.

② 俵 志江、李 錦純、奥平 尚子：A 県の医療機関に所属する保健師の業務内容の実態に関する研究：看護管理責任者の質問紙調査から、甲南女子大学研究紀要. 看護学・リハビリテーション学編 (8) ; 79-86, 2013 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大谷喜美江	4. 巻 22 (7)
2. 論文標題 管理監督者が認識する地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 77 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷喜美江, 廣田直美, 根岸茂登美, 佐藤真由美, 長谷川喜代美, 荒木田美香子	4. 巻 14
2. 論文標題 医療機関に所属する保健師の役割に関する文献検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本赤十字豊田看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大谷喜美江, 廣田直美, 佐藤真由美, 長谷川喜代美, 荒木田美香子
2. 発表標題 管理監督者が認識する医療機関保健師への期待 地域包括ケア推進に向けて
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷喜美江, 廣田直美, 根岸茂登美, 佐藤真由美, 長谷川喜代美, 荒木田美香子
2. 発表標題 医療機関に所属する保健師の役割に関する文献検討
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	長谷川 喜代美 (Hasegawa Kiyomi) (90313949)	日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授 (33941)	
研究 分担者	佐藤 真由美 (Sato Mayumi) (40375936)	国際医療福祉大学・大学院・教授 (32206)	
研究 分担者	廣田 直美 (Hirota Naomi) (90793406)	日本赤十字豊田看護大学・看護学部・助教 (33941)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------